

Access Map



Campus Map



総合学域群
Webサイト
公開!

総合学域群に関する最新情報は
Webサイトでチェックしてください。

<https://scs.tsukuba.ac.jp>

この地で、
1年後の
わたしを探す。

総合学域群アカデミックサポートセンター完成イメージ



問い合わせ先

総合選抜に関すること



総合学域群に関すること



発行 筑波大学 総合学域群
住所 茨城県つくば市天王台1-1-1
発行日 2020年7月3日
URL <https://scs.tsukuba.ac.jp>



筑波大学
University of Tsukuba

2021年
4月
始動!

総合学域群

総合選抜で筑波大学に入る

進路決定の 固定観念から自由になろう！

総合選抜とは

「物理が得意だから、大学では物理学を勉強しよう」と決めてしまいませんか？大学にはみなさんの知らないたくさんの学問領域があります。高校で学んだ教科だけで進路を決めてしまうと、自分の将来を狭めてしまうかもしれません。情報学は理系、地理学や心理学は文系、と思い込んでいませんか？多くの学問は、文系、理系、どちらからもアプローチが可能です。まずは、それぞれの学問に実際に触れてみて、その後に専門を決めるという方法もあります。

それをかなえる入試が「総合選抜」です。

これまでの筑波大学の入試は受験時に学群・学類を決める方式でした。総合選抜では「文系」「理系Ⅰ」「理系Ⅱ」「理系Ⅲ」という学群・学類よりも幅広い区分で選抜します。入学後の1年間は英語をはじめとする外国語や情報・体育などの基礎科目のほかに、様々な分野の専門導入的な科目を学び、1年次の終わりに本人の志望と入学後の成績などに基づいて2年次以降に所属する学類・専門学群が決まります。

いずれの区分で入学しても、体育専門学群を除くすべての学群・学類に進めます。ただし、志望する学群・学類の指定する科目を履修していることが条件となります。また、特定の選抜区分で入学した学生を優先して受け入れる学群・学類もあります。

総合選抜の選抜方針

■ 共通の選抜方針

外国語及び受験生が得意とする領域における思考力、判断力、表現力を重視しつつ、高等学校で学ぶ基礎・基本的な学力を全般的に評価します。

■ 文系

入学の時点で、文科系志向の学生を選抜します。

■ 理系Ⅰ

入学の時点で、物理学の素養を必須として理科系志向の学生を選抜します。

■ 理系Ⅱ

入学の時点で、特定の分野にとらわれない理科系志向の学生を選抜します。

■ 理系Ⅲ

入学の時点で、数学に重点をおいて理科系志向の学生を選抜します。

アドミッション・ポリシー

求める人材

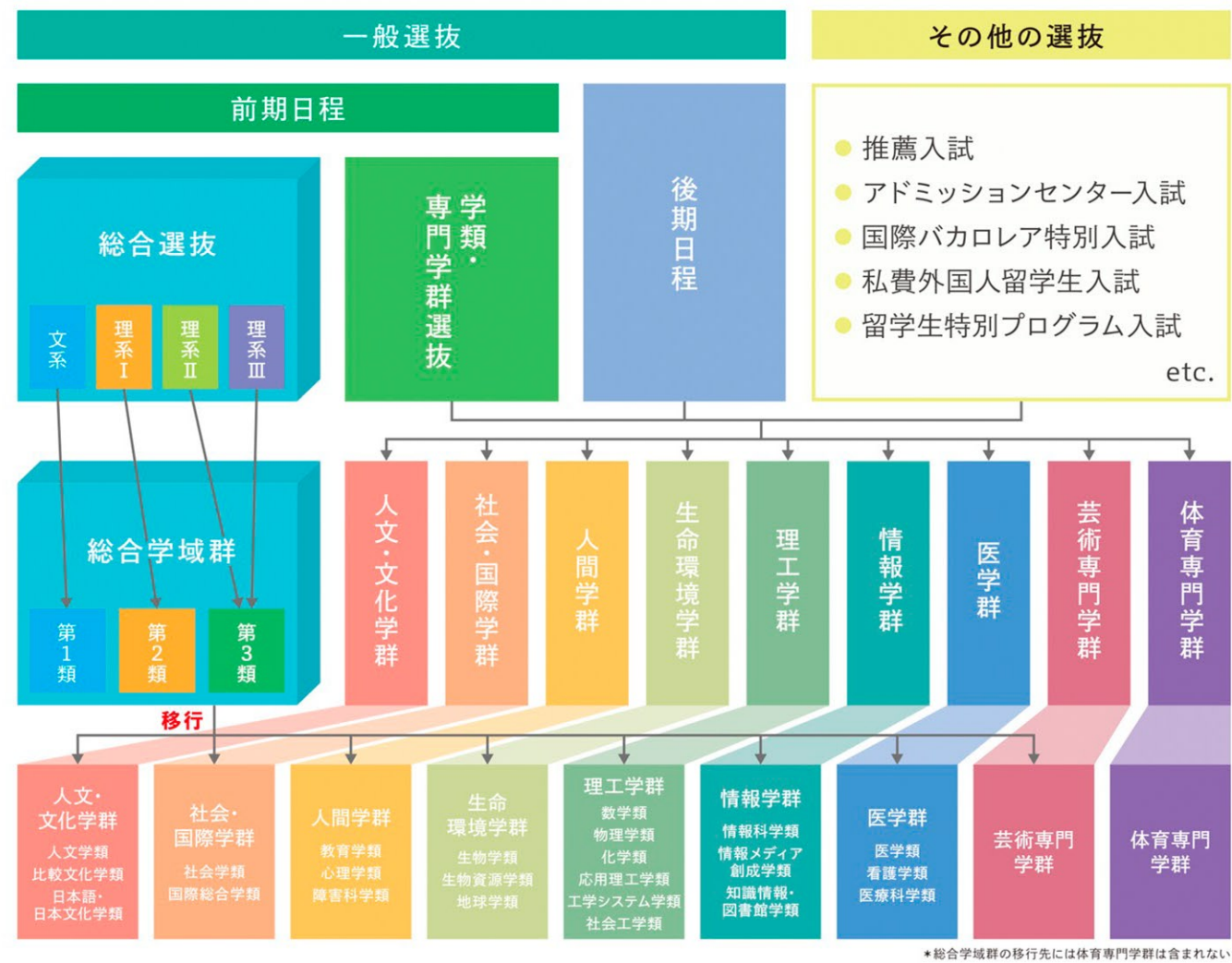
大学において学問的な俯瞰をしながら専門分野を定め、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力と学習意欲を有する人材

入学までに 学んでほしいこと

高等学校までの基礎学力をまんべんなく身につけておくこと。また幅広く興味関心を持ち、学習に主体的に取り組む態度と自らのキャリアを選択できる力を養うことが望ましい。

入試の分類
入学者選抜

入学後の所属
1年次
2年次以降



総合選抜入学者の2年次受入定員と優先受入人数

(2021年4月入学者)

○は受け入れがあることを、◎は優先する選抜区分と優先受入人数を示します。

学群	学類	2年次受入定員*	文系 128名	理系Ⅰ 154名	理系Ⅱ 41名	理系Ⅲ 90名
人文・文化学群	人文学類	30名	◎ (25名)	○	○	○
	比較文化学類	20名	◎ (17名)	○	○	○
	日本語・日本文学類	20名	◎ (18名)	○	○	○
社会・国際学群	社会学類	20名	◎ (16名)	○	○	○
	国際総合学類	20名	○	○	○	○
人間学群	教育学類	3名	○	○	○	○
	心理学類	5名	○	○	○	○
	障害科学類	3名	○	○	○	○
生命環境学群	生物学類	20名	○	○	◎ (15名)	○
	生物資源学類	20名	○	○	◎ (5名)	○
	地球学類	13名	○	◎ (6名)	◎ (4名)	○
理工学群	数学類	10名	○	◎ (8名)	○	◎ (1名)
	物理学類	15名	○	◎ (10名)	○	○
	化学類	13名	○	◎ (10名)	○	○
	応用理工学類	30名	○	◎ (27名)	○	○
	工学システム学類	33名	○	◎ (30名)	○	○
社会工学類	社会工学類	30名	○	◎ (15名)	○	○
情報学群	情報科学類	20名	○	○	○	◎ (16名)
	情報メディア創成学類	18名	○	○	○	◎ (15名)
	知能情報・図書館学類	45名	◎ (10名)	○	○	◎ (30名)
医学群	医学類	5名	○	○	○	○
	看護学類	5名	◎ (2名)	○	○	○
	医療科学類	10名	○	○	◎ (4名)	○
芸術専門学群	芸術専門学群	5名	○	○	○	○
体育専門学群	体育専門学群	受け入れはありません。				
合計		413名				

*2年次受入定員は募集人員をベースに示したものです。実際の受入人数は、入学者数などによって異なります。

総合学域群へようこそ

未来を見据えて、
広い視野から
じっくりと学ぼう

山中 弘
総合学域群長
(特命教授)



総合学域群は、令和3年4月から学生を受け入れる筑波大学で最も新しい学群です。ここに籍を置く学生は総合選抜入試で入学した1年次生だけです。2年次になると自分の希望する学類・専門学群に進級して、所属も総合学域群からそれぞれの教育組織へと移ります。つまり、本学域群は、総合選抜で入学した1年次生のためだけに用意された特別な「学びの場」ということになります。総合学域群という名前に注目してください。これまでの学類・専門学群は名前から何をそこで学ぶことができるのかおよそ見当がつかしました。総合学域群は、そうした専門領域の名前ではなく、どの学問的領域でも広く総合的に学ぶことができる「学域」、つまり総合学域群と名づけられました。

本学域群の特長の一つは、高校までの学びに基づき、複数の専門領域の学修を通じて広い視野から様々な問題を多角的にとらえる基礎的な力を身につけるということです。特定の学類・専門学群に属していないメリットを最大限に活用して、複数の学類・専門学群が提供する専門導入科目などを積極的に履修してみてください。もう一つの特長は、自分とは違う問題意識や将来の夢をもつ仲間と一緒に、1年間の学びの中で将来の方向性を考えながら、自分の関心と適性に合った学類を絞ることができるということです。もちろん、「移行」先を絞ることは一人では大変です。そのため、本学域群には、他の学類・専門学群にはないアカデミックサポートセンターという、1年次の皆さんの学修を手厚く支援する組織を備えています。

いずれにしても、総合学域群という学びの場を意義深いものにできるかどうかは、最終的には皆さん次第です。皆さんが総合学域群に所属して良かったと自信を持って振り返ることができるよう、一緒に頑張っていきたいと思います。

1年次の履修科目

1年次では、主として「共通科目」および全学向け入門科目である「専門導入科目」を履修します。「共通科目」は、全学生必修の総合科目、体育、外国語、情報など、大学での学修で必要とされる基本的な能力を身につけることを目的とした科目が中心です。

共通科目

総合科目	初年次においては大学の学修環境に適応し、自律的にキャリア形成を始めることを支援する科目です。更に専門分野へ進むための知識基盤を整えます。
体育	スポーツ科学を基にした多様なスポーツ実践を通し、「健やかな身体、豊かな心、たくましい精神」を養います。
外国語	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語があります。学術研究の場で外国語が駆使できるようになることをめざします。
情報	「情報リテラシー」で情報とコンピュータに関する基本概念を学び、「データサイエンス」でデータ収集・管理・分析に関する基本概念を身につけます。
国語	国際化した知識基盤社会を生き抜くために、日本語について正しい知識を習得し、自己の意思を的確に表現し伝達する能力を養います。
芸術	美的感性を磨き、表現する喜びを体験します。総合大学の学生にふさわしい豊かでバランス感覚のある人間性を育みます。

専門導入科目

「専門導入科目」は各学問分野への入門的な科目です。筑波大学では、学生が様々な専門分野を体系的に学べるよう、専門分野の入り口として「専門導入科目」を用意しています。専門導入科目は高校卒業程度の知識を前提とした内容で、すべての学類・専門学群から様々な科目が提供されています。

専門導入科目などから興味のある科目を選択して学びながら、移行したい学類・専門学群について考えてください。志望する学類・専門学群によって移行・卒業に必要な科目は異なります。科目の履修や移行先の選択にあたっては、Web・冊子等の情報が参考になるほか、アカデミックサポートセンターのスタッフなどに相談することができます。

専門導入科目
約110科目から
選択



学類・専門学群
に移行

夏季休業



秋学期

秋学期の
成績確定

3月下旬
移行先の決定

2月下旬~3月上旬
志望先の検討・
最終決定

10月上旬
秋学期開始

志望登録ガイダンス

学類・専門学群の決定

1年次の3月に、2年次に移行する学類・専門学群が決まります。移行先は、学生の「志望順位」と学類・専門学群の「受入順位」の組み合わせによって決定されます。

学生の「志望順位」

学生は、自分が進みたい学類・専門学群に順位を付けます。この順位を「志望順位」と呼びます。志望できる学類・専門学群の数には制限がありません。ただし、志望先によって指定科目の履修が必要となる場合があります。

Aさんの志望順位
1位 X学類
2位 Y学類
...

Bさんの志望順位
1位 Y学類
2位 X学類
...

学類・専門学群の「受入順位」

各学類・専門学群は学生を受け入れる順位を決定します。この順位を「受入順位」と呼びます。「受入順位」は、履修した科目の成績を総合した「成績点(注)」と、英語外部試験や適性試験といった「成績点以外の要素」も加味して、各学類・専門学群の基準で決定されます。
(注)学類・専門学群によっては、特定の科目を重視して成績点が計算されます。たとえば、多くの理系の学類は理系の科目に重きをおいて成績点を計算します。

X学類の受入順位
1位 Aさん
2位 Bさん
...

Y学類の受入順位
1位 Bさん
2位 Aさん
...

移行先の決定

Aさん▶X学類

Bさん▶Y学類

模擬判定

年に数回、実施時点の成績情報を用いて、移行の可能性を判定する「模擬判定」が行われます。この結果を踏まえて移行先を検討することで、履修する科目の選択および志望先の検討に活かすことができます。この時点での判定結果が実際の移行先決定に影響を与えることはありません。

総合学域群の1年間

春学期



4月上旬
春学期開始

入学

履修計画
(時間割作成)

履修計画の修正
(時間割修正)

8月上旬
春学期の授業終了

履修計画の見直し
(時間割再作成)、
移行先の絞り込み

履修関連ガイダンス、
学类等紹介ガイダンス

模擬判定
(年に複数回実施予定)

オリエンテーション

学類・専門学群への移行について

総合学域群の学生は、1年間の学びの後、所属する学類・専門学群が決まります。これを「移行」と呼びます。どの学類・専門学群に「移行」するかは、本人の志望と、入学後の成績や適性に基づいて決定します。どの選抜区分(文系、理系Ⅰ、理系Ⅱ、理系Ⅲ)で入学しても、体育専門学群を除くどの学類・専門学群にも移行する道があります。

移行先を選ぶには

- Web・冊子等で提供される情報
- 全学必修科目「学問への誘い」
入学後すぐに履修するこの科目は、幅広い学問分野を俯瞰する助けとなります。
- 興味・関心に基づいて履修した科目の講義内容
- 各種ガイダンス
- アカデミックサポートセンターのスタッフなどとの相談

Support1

類・クラス

入学して所属する類(第1類、第2類、第3類)、そしてその中のクラスが、皆さんの大学生活初年度の基本単位です。クラス担任が、実施するフレッシュマン・セミナーなどを通じて、皆さんの修学や学生生活全般について助言や相談に応じます。また、クラスや類において複数回履修等のガイダンスを実施する予定です。



Support2

アカデミックサポートセンター

総合学域群の学生は入学してからの学びのなかで、将来の進路や自分の関心、適性にあった学類・専門学群を選択します。入学直後は、自分の興味・関心が定まらず学類等の選択や科目の選択に迷うかもしれません。アカデミックサポートセンターでは、志望する移行先の絞り込みの助言や適切な履修計画・進路選択等をしっかりとサポートします。



Support3

全学学生支援組織

保健管理センター／学生相談室・総合相談窓口／ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター(DACセンター)

筑波大学のすべての学生に向けて、健康面や学修面などをサポートする体制が用意されています。積極的に活用してください。



Q&A

Q1

進みたい学類・専門学群がまったく決まっていないのですが、1年で決められるようになるのか不安です。

A1

そうした不安を解消するためのサポート体制が用意されています。総合選抜の利点は、自分の将来の可能性を考えながら、いろいろな学問領域の勉強を進め、そのなかで専門を決められるところにあります。そのため、クラス担任やアカデミックサポートセンターのスタッフが皆さんの進路選択の相談にのり、どの選択がみなさんの将来にとって良いのかを一緒に考えていきます。

Q2

1年次に留学できますか？

A2

できます。ただし、留学することにより履修できない科目があると、希望する学類・専門学群へ移行できるかどうかに影響する可能性があります。詳しくは入学後に相談してください。

Q3

移行後に学類・専門学群で入学したグループについていけるかどうか、仲間に入れるかどうか不安です。

A3

移行後の教育は、所属した学類・専門学群が責任を持って対応します。編入学生や留学生等、途中年次から筑波大学に通い始める人も大勢いますが、授業に出ているなかで、自然と仲も深まっていき楽しそうにしています。また、学生生活について何でも相談できる窓口があります。

Q4

総合選抜で入学すると、それ以外の学生とは別の科目を履修する必要がありますか？

A4

必要はありません。卒業までに履修しなければならない科目はそれぞれの学類・専門学群が定めており、総合選抜で入学しても、卒業に必要な要件は同じです。ただし、総合選抜以外の入試区分で入学した学生は、主として既に定められた履修計画に沿って履修するのに対して、総合学域群の学生は移行までの1年間、複数の学類・専門学群の提供する科目を幅広く履修し、志望学類・専門学群の絞り込みを行うことが予想されます。そのため、その他の選抜で入学した学生に比べて、より幅広い科目を履修することになるかもしれません。

Q5

どのように時間割を作成すればよいですか？自分一人で履修計画を立てることができるでしょうか？また、自分の興味のあることを学べるような志望先が見つかって、授業の内容がおもしろいと感じていけないといったことはないでしょうか？

A5

アカデミックサポートセンターのスタッフが、入学直後のオリエンテーションや随時実施される個別相談を通じ、志望先に沿った履修計画の相談に応じます。授業を受ける中で、自分の志望に合わせた履修計画を提案してもらうこともできるので、個別相談を積極的に活用してみましょう。また、授業の内容についてわからないことがある場合、大学院生のTA(ティーチング・アシスタント)が勉強の仕方やその内容について具体的に助言します。

Q6

どのタイミングで志望先を絞り込んで、最終的に志望先を決めるのでしょうか？また、自分の興味のあることを学ぶためには、どの学類・専門学群を選択したらよいでしょうか？

A6

入学してから移行するまでの間に、移行先の絞り込みのためのガイダンスを複数回実施予定です。移行がスムーズに行えるように、アカデミックサポートセンターのスタッフが個別に対応します。また各学類・専門学群から選出された教員が、アカデミックアドバイザーとしてそれぞれの学類・専門学群の教育内容を詳しく説明します。さらに学類を越えた領域横断的な観点から助言するアカデミックコーディネーターの先生もいます。これらのサポートを通じて、自分の関心に合った適切な学類・専門学群が見つけれられるでしょう。



教員からのメッセージ



青柳 悦子
第1類長
(人文社会系 教授)

大学での学びの期間を皆さんが存分に生かすには、高校まで以上に、自分の問題意識や関心を磨くことが大事です。特定の学術分野に飛び込んでしまう前に、総合学域群に所属することで、専門化された学問領域を横断する視野を養えることは、皆さんにとって大きなメリットになります。きっとそこから、自分らしさを生かせる課題が見えてくることでしょう。専攻したい分野を時間をかけて見つけるためにも、またその後も役立つ幅広い知的好奇心をはぐくむためにも、大学生活をここでスタートしてみませんか？



中谷 清治
第2類長
(数理物質系 教授)

高校までに様々な分野を勉強し、興味を膨らませてきたことと思いますが、大学で学修すると考えていたものと異なると感じる分野が多くあります。例えば、高校まではこの分野は物理と直接関係ないと思っていたのに、大学ではこんなに物理が重要なのかと思う分野等があります。また、基礎的な分野と応用的な分野、同じ学問をベースにしても面白さが異なります。いろいろな分野の学問に触れて、自分の分野を見つけ、将来について考えることができるのが、総合学域群の特徴です。私も大学1年生のとき、入学した分野と異なる分野に変更しようと悩みました。共に悩み、考えましょう。



松井 圭介
第3類長
(生命環境系 教授)

総合学域群の最大の魅力は、自分の学びたい分野(学類・専門学群)を入学後に決められること。例えば生物学類と生物資源学類、応用理工学類と工学システム学類、皆さんには違いがわかりますか？入学後に先輩から話を聞いたり、実際に講義を受けたうえで希望学類を選択する。文理の壁さえも(意欲と能力次第で)越えられる。それが総合学域群です。希望分野の人気が高ければ、入学後の競争もあるでしょう。でも勉学は大学生の本分、大学進学は目的ではなく、将来を切り拓くための手段なのです。高校時代まで触れることのなかった学問を知り、新たに興味をもつ分野が生まれるのが大学生生活の醍醐味。そんな皆さんのつくばライフを本気で応援いたします。



加賀 信広
アカデミック
サポートセンター長
(人文社会系 教授)

アカデミックサポートセンターは、総合学域群の学生さんを支援するために、新たに設置される組織です。ここには、各学類・専門学群の教育内容を熟知しているアドバイザーの先生方、全学の教育システムに通じているベテランのコーディネーターの先生方、履修や移行について個々の相談にも応じてくれる専門スタッフなどが所属しています。専門スタッフは本学の卒業生や、みなさんにとって比較的年齢が近い人もいます。事務職員や大学院生のティーチング・アシスタントとも力を合わせて、総合学域群生の学びと生活を精一杯「サポート」します。筑波山のふもと、研究学園都市にある、筑波大学でお待ちしています。